

児童発達支援 事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和3年 3月 1日

事業所名 スタジオそら原宿

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	① 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係が適切であるか	9	0	・学習と運動の部屋等、部屋を壁で分け、集中しやすいよう工夫している。 ・打ち合わせ時に、使用する部屋の順番等の割り振りをしている。	・今後もスペースの有効活用を心掛ける。
	② 職員の配置数は適切であるか	9	0	・加配を付け、一対一で指導している。	・人員配置としては適当な人数の為、動線の見直しや職員のスキルアップで補っていく。
	③ 生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっている。また、障害特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	4	5	・入口に階段がある為ベビーカー等は職員が一緒に持つなどしている。 ・洗面台の「手洗い順」や、玄関の「足型」等の提示を行なっている。 ・壁や扉の角にクッションを設置。	・部屋の入り口の取っ手が細長く、未就学児の高さにあるため安全管理に気を配る。
	④ 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間になっている。	9	0	・特に、感染症対策として、手洗いうがい、こまめな消毒等を行っている。	・今後も清掃、消毒を徹底していく。
適切な支援の内容	⑤ 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に広く職員が参加している	9	0	・ケース会議以外に、終礼時に子どもの様子など共有し、常に振り返りを行っている。	・なるべく出勤者の多い日に設定し多くの人に参加できるように工夫していく
	⑥ 保護者向け評価表により、保護者に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善に繋げている	9	0	・ソフト面に対しては、頂いた意見を取り入れ対応している。	・評価表以外でもご意見を頂きやすい環境を作っていく。
	⑦ 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	9	0	・HPで公開している。	・今後も継続していく。
	⑧ 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	1	8	・社内でチェック機能を作り、定期的に評価している。	・外部評価には至っていないが定期的に社内でチェックを行っていく。
	⑨ 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	9	0	・社内研修を実施している。	・事業所内でまとまった時間を確保することが難しいため、個々への指導となっている。 ・社内研修の充実化を図っていく。
業務改善	⑩ アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	9	0	・アセスメントに時間を多くとり、情報収集はスタッフで手分けして行っている。	・保護者との面談の機会を増やしていく。
	⑪ 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	9	0	・社内共有のアセスメントツールを使用している。	・アセスメントツールを使用できるスタッフを増やしていく。
	⑫ 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	9	0	・本児支援だけでなく、その他の支援に関しても必要に応じて対応している。	・ガイドラインをスタジオに設置し、いつでも目を通せるようにしているため今後も意識して確認できるようにしていく。
	⑬ 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	9	0	・支援計画に沿った支援内容、記録方法を行っている。	・打ち合わせで必ず確認していく。
	⑭ 活動プログラムの立案をチームで行っている	9	0	・毎活動時、朝礼、昼礼、終礼の実施。 ・話し合いで療育時の方向性を決めている。 ・プログラムごとに担当者を割り振り、話し合いながら行っている。	・スタッフ同士の意見交換が活発になると相乗効果が生まれるので、意見交換がしやすい環境を作っていく。
	⑮ 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	9	0	・学校体育や、あそび等、毎月あるプログラムは月ごとにテーマを決めている。 ・個別支援計画書にそって様々なプログラムやツールを実施している。	・職員のスキルによって提供できるプログラムに差があるため、先輩職員の持っている知識を周知する方法を検討する。
	⑯ 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせさせて児童発達支援計画を作成している	9	0	・基本的には個別療育を中心に行っている。 ・集団活動は十分な距離をとり、接触を最小限に抑え実施。	・必要に応じて相談していく。
	⑰ 支援開始前には職員間で必ず打ち合わせし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	9	0	・打ち合わせ時に、当日だけではなく、前回の内容も合わせて共有している。 ・前日の業務日誌の共有、その日の児童プログラムや課題の共有をしている。	・今後も丁寧に打ち合わせを実施していく。
	⑱ 支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	9	0	・全員が発言できるよう、工夫している。	・より効率的で適切な共有方法を検討していく。
	⑲ 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	9	0	・記録の書き方について、必要に応じて指導している。	・記録用紙の書き方を、誰が見ても分かりやすいよう、どんな教材や教具を使用したかなど、具体的に記述する。
⑳ 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	9	0	・過去の記録をもとにモニタリングを実施している。	・今後も丁寧に見直しを行っていく。	
	㉑ 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参加している	9	0	・必要に応じて児発管がリモートで参加している。	・新しい職員にも担当者会議の役割について説明していく。
	㉒ 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	9	0	・必要に応じて対応している。	・連携をとれていない機関もあるので、関係を深めていきたい。

関係機関や保護者との連携	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	9	—	現在対象者は利用していない	特になし
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子ども主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	9	—	現在対象者は利用していない	特になし
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	9	0	・必要に報じて情報共有している。	・保護者を通して、他の施設からの申し出があった時のみ共有をしている。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	9	0	・必要に応じて情報共有している。	・保護者を通して、他の施設からの申し出があった時のみ共有をしている。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	9	0	・月に一度集まり、リモートで他事業所と情報交換や研修を行っている。	・管理者のみに限らず多くのスタッフが参加できるよう工夫していく。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	0	9	・毎年行っていたそらコンサートの開催が感染症対策の為、実施できなかった。	・感染症等の状況を踏まえながら検討していく。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	9	0	・子ども部会の集まりにリモートで参加し、地域の行動も確認している。	・自立支援協議会について、職員への周知ができていないことが課題。今後地域の福祉の動きなども事業所内で周知していく。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	9	0	・話しやすい雰囲気を作っている。	・今後も気軽に声を掛けたいような雰囲気を作っていく。
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	0	9	・ペアレント・トレーニングは未実施だが、答えられる範囲でご相談に乗っていく	・フィードバック時など、相談などは行っているが、ペアレント・トレーニングは未実施なので、実施できるよう制度を構築できるよう目指していく
	保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	9	0	・契約時に説明している。
33		児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	9	0	・支援計画についての面談し、ご要望の聞き取りや確認を2回に分ける事で、ニーズをくみ取る工夫をしている。	・ゆっくりとした時間を取れていないため、お時間とお話ができるように工夫していく。
34		定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	9	0	・フィードバック中などで伝えきれない場合は、後日別途時間を作り伝えている。	・今後も気軽に声を掛けたいような雰囲気を作っていく。
35		父母の余の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0	9	・保護者のニーズを聞き取り、必要に応じて検討する。	・保護者のニーズを聞き取り、必要に応じて検討する。
36		子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	9	0	・フィードバック中の時間で対応できない場合は、後日改めて時間を作り対応している。	・今後も気軽に声を掛けたいような雰囲気を作っていく。
37		定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	9	0	・HP上で情報発信をしている ・スタジオ独自で掲示物を作成するなどして活動内容が分かりやすくなるよう工夫していく	・HP上でもそら通信の充実に加え、毎月のスタジオでの課題が充実するよう工夫する。
38		個人情報の取扱いに十分注意している	9	0	・必要に応じて面談室を使用している。	・必要に応じて面談室などを使用している。 ・今後も研修などで理解を深めていく。
39		障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	9	0	・子どもの理解力によって、絵カードなど、言葉以外の方法で伝えている。	・子どもの理解度に合わせた指示の仕方など配慮している。 ・また保護者の方には気軽に声を掛けていただけるように音段からのコミュニケーションをとることも意識している。 ・手段や工夫の方法をより多く知れるよう研修を実施していく。
40		事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	5	4	・毎年行っていたそらコンサートの開催が感染症対策の為、実施できなかった。	・例年そらコンサートを実施、地域の方にも参加してもらっているようにしていたが、今年度は新型コロナウイルス感染対策の為実施できなかった。 ・感染症等の状況を踏まえながら検討していく。
非常時の対応		41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	9	0	・閲覧用マニュアルの設置を行うとともに、新型コロナウイルス対策についても掲示し周知している。 ・職員に対しては定期的に研修を行っている。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	9	0	・例年2回(9月2月)、訓練する日を設け、訓練している。	・新型コロナウイルス感染対策例年通りの実施ではなかった。 ・今後も研修などで理解を深めていく。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	9	0	・必要に応じて、てんかんの対応等の聞き取りをしている。	・対象児童について情報共有だけでなく、てんかんなどに対する基礎知識の研修ができるよう、検討していく。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	9	0	・基本的に食事提供等がないため、イベント時などに保護者に確認している。	・今後も注意喚起を行っていく。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	9	0	・ファイルを作成し、いつでも閲覧できるようにしている。	・今後も研修などで理解を深めていく。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	9	0	・定期的に研修を行っている。	・今後も研修の回数を増やしていきたい。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	9	0	・対象になる利用者がいないため行っていないが、マニュアルはある。	・今後も研修などで理解を深めていく。

この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。